

# セロトニン濃度のこと

うつ病ではセロトニンが不足していると言われており、下記のような症状が見られます。セロトニン濃度を測ることで、お薬が体の中でちゃんと働いているか検査できます。2023年、精神科における日本最大の学会である第119回 日本精神神経学会にて、当院のセロトニン濃度測定に関する学術論文がクレジットされました。



お薬による治療を  
されている方の  
セロトニン濃度推奨値

**20**以下  
( $\mu\text{mol/L}$ )

## 血漿中セロトニン(5-HT)濃度測定によりもたらされるうつ病治療のパラダイムシフト

### Paradigm shift in depression treatment brought about by plasma serotonin concentration measurement

小林 マーク<sup>1</sup>

<sup>1</sup>新鎌ヶ谷駅前クリニック 精神神経科

【目的】うつ病患者の血漿中5HT濃度は健常者と比べて低値であり、その原因は血小板の5HT取り込み能が低下しているためと報告されている。血漿中5HT濃度測定がうつ病治療の指標となる可能性はないだろうか。うつ病治療の課題として、薬物療法の非アドヒアランスの高さが挙げられるが、服薬状況確認の精度は限定的である。今回は、血漿中セロトニン濃度と抗うつ薬の服薬アドヒアランスとの関連性を検証した。本研究は、既に学術的な価値が定まり、研究用として広く利用され、かつ、一般に入手可能な試料・情報を用いた研究であるため、特に倫理的配慮を要しない。【方法】2015年5月より2021年6月までに当院を受診し、DSM-IV及びDSM-Vによるうつ病診断基準を満たした患者1001例を対象に、抗うつ薬による薬物治療前、開始4ヵ月後、7ヵ月後、10ヵ月後、13ヵ月後の血漿中5-HT濃度を測定し、当院及び調剤薬局にて残薬確認を行った。【成績】男性422名、女性579名、平均年齢49.1歳、抗うつ薬使用前の平均血漿中5-HT濃度は136.9 $\mu\text{mol/L}$ であった。抗うつ薬使用後の最終測定時平均血漿中5-HT濃度は41.3 $\mu\text{mol/L}$ であり、有意な低下が示された。服薬順守率別では、100%群は12.5 $\mu\text{mol/L}$ 、70-99%群は18.8 $\mu\text{mol/L}$ 、40-69%群は31.0 $\mu\text{mol/L}$ 、11-39%群は94.6 $\mu\text{mol/L}$ 、10%以下群では158.3 $\mu\text{mol/L}$ と、服薬順守率との関係で負の相関が明確に認められた。服薬順守率100%群における薬剤別の血漿中5-HT濃度は、デュロキセチン群は抗うつ薬使用前121.7 $\mu\text{mol/L}$ 、最終測定時14.4 $\mu\text{mol/L}$ 、エスシタロプラム群は抗うつ薬使用前153.6 $\mu\text{mol/L}$ 、最終測定時10.0 $\mu\text{mol/L}$ 、ポルチオキセチン群は抗うつ薬使用前116.8 $\mu\text{mol/L}$ 、最終測定時14.6 $\mu\text{mol/L}$ と、いずれも有意な低下が認められた。【結論】服薬アドヒアランスと血漿中5HT濃度の関係に有意な負の相関が認められた。従来の日常診療において、正確かつ簡便な服薬アドヒアランスの把握は困難であったが、6年間の当院に来院された1001例の実臨床の結果を経て、血漿中5HT濃度測定が有用な方法であることが結実した。